



Q6

題材*をデザインする際のポイントは、どのようなものですか。



A 3年間を見通した指導計画や年間指導計画を踏まえて、題材をデザインすることが大切です。題材をデザインする際のポイントについて、以下の手順を例に示します。

- (1) 題材を通して育成する資質・能力を明確にし、題材の目標を立てます。
- (2) 題材を通して育成する資質・能力を身に付けることができるようにするために、授業をデザインします。
- (3) 各時間の学習内容や学習活動を考えます。
- (4) 題材の指導と評価の計画を作成します。

題材*) 「題材」とは、育成する資質・能力を明らかにして、一定のまとまりのある学習指導を行うための単位です。音楽科では主題性や教材性などを大切にしています。題材づくりは、指導計画作成の最も基本となるものです。

【大熊信彦・酒井美恵子編著「中学校音楽科教師のための授業づくりスキル」より】

題材をデザインするに当たって大切なことは、題材全体を見通して「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善の視点でデザインすることです。その際、生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせることができるようにすることが重要となります。

題材デザインの具体について、第2学年「A表現（1）歌唱」（主な教材：「夏の思い出」江間章子 作詞/中田喜直 作曲）を例に示します。



参考

- ⇒はじめに：音楽科の学習における「主体的・対話的で深い学び」とは、どのようなものですか。
- ⇒Q1：「音楽的な見方・考え方」とは、どのようなものですか。

- (1) 題材を通して育成する資質・能力を明確にし、題材の目標を立てます。

□ アンケートや振り返りなどの学習履歴を活用し、生徒の実態を把握します。

感受することはできるようになってきたけど、知覚することはまだ苦手みたいだなあ

少しずつ発声の方法が身に付いてきているなあ

歌詞の内容と関わらせながら、日本語がもつ語感のリズムと旋律の美しさを味わって歌うことができるようにしたいなあ

□ 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編を基に、題材を通して育成する資質・能力を明確にし、題材の目標を設定します。その際、題材において、「A表現」については、ア、イ及びウの各事項を、「B鑑賞」については、ア及びイの各事項を適切に関連させ、〔共通事項〕ア及びイを位置付けます。

◆中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編の内容

| | |
|----------------|---|
| | (1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。 |
| 思考力, 判断力, 表現力等 | ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら, 曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。 |
| 知識 | イ(ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり |
| 技能 | ウ(ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声, 言葉の発音, 身体の使い方などの技能 |
| 〔共通事項〕ア | 音色, 旋律, 強弱, 形式 |



◆題材の目標（例）

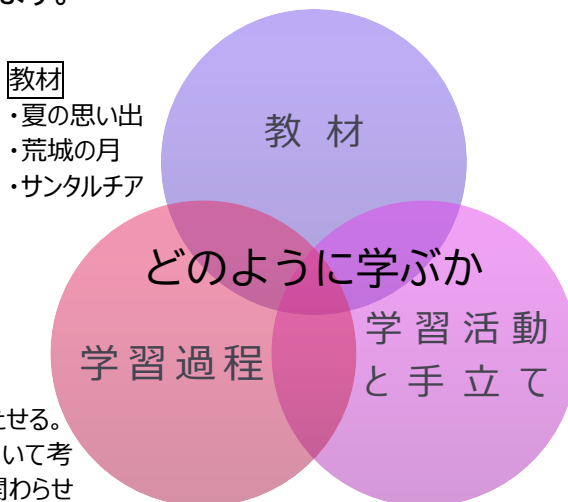
- 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。 知識及び技能
- 音色、旋律、強弱、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。 思考力, 判断力, 表現力等
- 歌詞の表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、我が国の名曲を歌い継いでいく心情や態度を育む。 学びに向かう力, 人間性等

事項ア、イ、ウの学習を通して、「学びに向かう力、人間性等」の涵養^{かん}を目指します。1つの題材において、バランスよく資質・能力を育むことに留意しましょう。



(2) 題材を通して育成する資質・能力を身に付けることができるようにするために、授業をデザインします。

□ 授業をデザインするための例として、どのように学ぶかについて、教材、学習過程、学習活動と手立ての3つの視点で整理します。



教材
 ・夏の思い出
 ・荒城の月
 ・サンタルチア

学習過程（例）
 ・歌詞の内容や曲想に関心をもたせる。
 ・知覚・感受したことの関わりについて考えさせ、曲想と歌詞の内容を関わらせて歌う。
 ・曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫させる。 など

学習活動と手立て（例）
 ・歌詞を朗読し、文語体や七五調のリズムを味わわせる。
 ・リズム打ちや階名唱を取り入れ、旋律に親しませる。
 ・範唱以外の伴奏で演奏されているものと比較聴取させる。 など

(3) 各時間の学習内容や学習活動を考えます。

□ 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善の視点で、各時間の学習内容や学習活動を考えます。その際のポイントは、題材を通して育成する資質・能力を身に付けるための手段である、表現及び鑑賞の幅広い活動いわゆる音楽活動となります。各時間のねらいに沿って、適切に音楽活動を位置付けましょう。

◆題材の指導計画（例）

| 時 | ◆学習のねらい | ○学習内容 | ・学習活動 |
|---|---|-------|---|
| 1 | ◆「夏の思い出」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容に関心をもつ。 ○「夏の思い出」の歌詞の内容や曲想に関心をもつ。 | | ・生徒自身の「夏の思い出」を想起させ、意見交流する。 ・「夏の思い出」の歌詞を朗読し、文語体や七五調のリズムを味わう。 ・「夏の思い出」の範唱を聴き、知覚・感受したことをワークシートに記入する。 ・リズム打ちや階名唱をして「夏の思い出」の旋律に親しむ。 ・「夏の思い出」の言葉の抑揚や旋律（音のつながり方、フレーズ）との関わりを意識しながら歌う。 |
| 2 | ◆「夏の思い出」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容について理解するとともに、音色、旋律、強弱、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。 ○「夏の思い出」の曲想と音色、旋律、強弱、形式や歌詞の内容との関わりを理解して、歌唱表現を創意工夫する。 | | ・「夏の思い出」の楽譜に示されている強弱などの記号に着目して歌い、知覚・感受したことを意見交流する。 ・ピアノ伴奏の変化に着目し、伴奏の変化が曲想に与える効果について考える。 ・よりよい歌唱表現の工夫をするために、範唱と範唱以外の演奏を比較聴取する。 |

「主体的な学び」、「対話的な学び」につながる学習場面の設定

題材を通して育成する「知識」については、音楽活動を通して、実感を伴った理解につながるようしましょう。

「対話的な学び」につながる学習場面の設定

題材を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」については、様々な表現を試行錯誤することができるように、範唱だけでなく範唱以外の演奏と比較聴取するなどして学習活動の展開を工夫しましょう。

(4) 題材の指導と評価の計画を作成します。

□ 題材における指導と評価の計画は、指導したことが確実に身に付いているかどうかを、どの場面でのような方法で評価をするのかということについて、あらかじめ明確にするために作成します。その際、題材の目標、題材の評価規準、1単位時間ごとの評価規準の設定、本時の目標と評価規準が整合するように十分に配慮することが大切です。題材の目標を基に作成した評価規準例を以下に示します。

◆題材の評価規準（例）

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|---|--|
| <p>知 「夏の思い出」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解している。</p> <p>技 創意工夫を生かした表現で「夏の思い出」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。</p> | <p>思 「夏の思い出」の音色、旋律、強弱、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫している。</p> | <p>態 「夏の思い出」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p> |

◆題材の指導と評価の計画（例）

| 時 | ◆学習のねらい ○学習内容 ・学習活動 | 観点 | | | 評価とその方法 |
|---|--|----|---|---|--|
| | | 知技 | 思 | 態 | |
| 1 | <p>◆「夏の思い出」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容に関心をもつ。</p> <p>○「夏の思い出」の歌詞の内容や曲想に関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身の「夏の思い出」を想起させ、意見交流する。 ・「夏の思い出」の歌詞を朗読し、文語体や七五調のリズムを味わう。 ・「夏の思い出」の範唱を聴き、知覚・感受したことをワークシートに記入する。 ・リズム打ちや階名唱をして「夏の思い出」の旋律に親しむ。 ・「夏の思い出」の言葉の抑揚や旋律（音のつながり方、フレーズ）との関わりを意識しながら歌う。 | | | | <p>1 単位時間ごとの評価規準を基に、観察やワークシートの記述などを材料にして、〔指導に生かす評価〕を行います。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」については、題材の終末に評価することが望ましいです。</p> |
| 2 | <p>◆「夏の思い出」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容について理解するとともに、音色、旋律、強弱、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。</p> <p>○「夏の思い出」の曲想と音色、旋律、強弱、形式や歌詞の内容との関わりを理解して、歌唱表現を創意工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「夏の思い出」の楽譜に示されている強弱などの記号に着目して歌い、知覚・感受したことを意見交流する。 ・ピアノ伴奏の変化に着目し、伴奏の変化が曲想に与える効果について考える。 ・よりよい歌唱表現の工夫をするために、範唱と範唱以外の演奏を比較聴取する。 | 知 | 思 | | <p>・観察</p> <p>・ワークシート</p> <p>1 単位時間ごとの評価規準を基に、観察やワークシートの記述などを材料にして、〔記録に残す評価〕を行います。</p> |

評価規準の作成のポイントについては、『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』、佐賀県教育センターが作成した「学習評価の進め方」などを参考にしましょう。

この題材デザインの具体では「実技テスト」を設定していませんが、歌唱や器楽などの表現を伴う学習活動における「実技テスト」の必要性について、よく吟味した上で設定しましょう。「実技テスト」を実施する場合には、演奏発表や発表会などと名称を工夫するなど、生徒が発表する必然性を感じることができるようしましょう。その際の学習評価については、指導した内容と整合するルーブリックを生徒と共有するようにしましょう。

参考

- ⇒ Q12：学習評価のポイントは、どのようなものですか。
- ⇒ 『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校音楽』（国立教育政策研究所）
- ⇒ 「平成29年改訂学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価の進め方 中学校音楽科」（佐賀県教育センター）